

1.9 大学図書館運営の課題と改善

東京大学附属図書館事務部長
笹川 郁夫

はじめに

大学は、知的生産の拠点であることは言うまでもなく、大学内全体の「情報」の中に大学図書館システムが維持して行かなければならない「学術情報」が存在する。

そうした中で、これまでは、情報流通のためのハードウェアやシステムばかりが先行して、その上を流れる情報の蓄積は遅々として進まない状況であった。

現在、大学図書館においては、学生が求める学習情報支援と教員が求める研究情報支援あるいは産学連携のための情報支援、国際情報交流などのために学術情報システムの再構築が求められており、情報技術の進展とともに新たな情報流通システムを充実・強化することが喫緊の課題である。

[大学図書館運営の課題と改善]

(1) 大学運営との連携

大学図書館も他の組織(部局等)と同じく組織の目的・目標・計画を効率的に遂行するために経営管理が必要であり、目的・目標・計画の達成度が組織の評価として現れ、その評価が経営管理自体にフィードバックされる。

・ 大学内における図書館の位置付けと理念&ミッション

～ 空気みたいな存在 ～

(2) 大学図書館のミッション

高度情報システムを使った情報共有機能，情報探索機能を構築し，学習・教育・研究活動を支援する。

諸機能を駆使して必要とされる学術情報資料を提供し，学習・教育・研究活動を支援する。

学ぶことへの障壁を除去することによって学習教育活動に必要な場を提供し，学習教育活動を支援する。

大学図書館は，学内全ての学生に対して自己学習と総合的教養修得の場を提供し，学習図書館機能の中心的役割を果たす。

主題関連資料を収集・保存し，学問研究の多様化・学際化を支援する。

主として大学院学生および学部学生にサービスする研究図書館機能を果たす。

(3) 情報システムと大学図書館システム

分散情報の融合移転 情報システムの協調

ワンストップ、ワンライティング

省力化、自動化によって生じた人的リソースを新たな情報戦略へ

全学に係る情報 例えば、研究情報、PRTR 法、知的財産に関する情報を学術情報として捉え付加価値(書誌情報など)を付け、大学として発信する。図書館の情報だけでは全学の情報発信とは言えない。

ワンストップ、ワンライティング

システム導入の視点：ITを活用した、徹底した無駄の排除

- 1) 情報技術の導入により、無駄を排除し、省力化を行い、コストを徹底的に削減すること。
- 2) それを新たな情報の創造・蓄積・発信の際の強みとし、省力化、自動化によって生じた人的リソースを新たな情報戦略へ重点的に投入していくことを可能とする。
- 3) システム化に当たっては、単に現在のワーク・フローをなぞるのではなく、業務革新、業務改善を目的とし、どれだけワーク・フローを短縮できるか、どれだけ経費を減らせるかを評価の視点とする。このことを達成することがIT化であり、この点が欠けたIT化は何の意味もない。

(4) 予算と運営経費 新たな企画

購買の効率化

外部資金の調達&寄贈作戦、節約(効率化、合理化)

各種学会等への寄贈依頼

図書館友の会

ジュニア TA の活用

~ 通常業務の見直しとシステム化による省力化の向上 ~

- ・ 専門的知識を必要としない業務の外注化
- ・ 情報化による効率化の推進
- ・ 従来 of 定常業務の徹底見直し
- ・ 選書 / 発注から目録業務までの自動サイクル化 = システム化
- ・ サービスカウンター業務の専門化
- ・ レファレンスDBの活用

* 与えられた課題を処理するのではなく、現場から課題を見つけ出し、読み取る。

(5)組織・運営

通常業務の見直しとシステム化による省力化・効率化の向上

改善のポイント

管理業務体制とサービス業務体制

キャリアパス計画と研修体制

- ・旧体制 新体制
- ・法人化をチャンスとして捉える事が必要。
- ・一つの考え方
「係」の集約化 グループ化(従来の係体制からの脱却)

従来の業務ルーティンの徹底見直し

システム化での効率

無駄な手順の廃止(統計、様式)

アウトソーシング(コスト分析)

(コンセプト)

スタッフと上司が、立場に関係なく、築いて行く体制

若い人から直接上司に伝わる仕組

自分には関係の無いという事がない体制

係の垣根を越えた業務体制(プロジェクト体制)

徹底したC o s t分析の必要性

民間経営学の導入

アイデアの創出(利用する人のための発想)

- ・インフォーマルなネットワーク作り オフサイドミーティング
- ・環境が変わってきた中で、自分がどれだけ事が出来るか！考える事が必要
- ・目標と課題の設定 = C o m m i t m e n t (目標が明確)

例：目標をどう設定するか！

前提を今後「実施」する課題と「検討」する課題に分け、さらに、その中の解決すべき具体的課題の柱を大きく三つに分ける。

- (1) 学術情報基盤の整備 = 「電子図書館的機能の整備・充実」情報発信
- (2) 利用環境及び利用者サービスの充実・強化
- (3) 事務の情報化、効率化、省力化

(6)学術情報システムの課題

書誌ユーティリティ全体の顕在化

[大学図書館における情報戦略と新たな展開]

(1)新たな情報流通基盤体制を目指して

～ IT 環境下における情報サービス～

情報アクセス支援、情報活用支援、情報発信支援

機関リポジトリ

最後に! 「教員と学生のために何ができるかを忘れずに!」